

草津市教育委員会会議録

平成30年1月定例会

(1月25日開催)

草津市教育委員会

出席委員	教育長	川那邊 正
	委員	杉江 由紀子
	委員	檀原 泉
	委員	中西 長雄
議事参与	政策監（学校政策担当）	佐々木 亨
	教育部長	明石 芳夫
	教育部理事（学校教育担当）	中瀬 悟嗣
	教育部副部長（総括）	田中 義一
	教育総務課長	松浦 正樹
	生涯学習課長	相井 義博
	スポーツ保健課長	岸本 久
	文化財保護課長	藤居 朗
	図書館長	北相模 政和
	学校教育課長	高井 育夫
	学校政策推進課長	宇佐 恒浩
事務局	教育総務課参事	川原 圭一

開会 午後 4時00分

川那邊教育長 それではただいまから、草津市教育委員会1月定例会を開会します。
なお、本日は周防委員から欠席届が出ておりますことを御報告します。

—————日程第1—————

川那邊教育長 日程第1、「会期の決定について」であります。本日1日限りといいた
したいと思います。御異議ございませんか。

各委員 — 異議なし —

川那邊教育長 異議がないようですので、1月定例会は、本日1日限りとい
たします。

—————日程第2—————

川那邊教育長 次に、日程第2、「12月定例会会議録の承認について」であり
ますが、あらかじめ事務局から配付され、熟読されていると思います。御
異議ございませんか。

各委員 — 異議なし —

川那邊教育長 異議がないようですので、12月定例会会議録は、承認
されたものと認めます。

—————日程第3—————

川那邊教育長 それでは、次に日程第3、「教育長報告」に移ります。
今日は新年になって、初めての教育委員会定例会です。今年も、充実
した草津市教育行政の推進に力を発揮したいと思っています。よろしく
お願い申し上げます。

さて、仕事納めの12月28日は事務局員に、また、仕事始めの5日、全
校長に教育長訓示を行いました。その中で、腰塚勇人（こしづかはやと）
という元中学校の体育教師のことを紹介しました。腰塚先生は熱血で、
授業や部活指導に充実した生活を送られていたのですが、2002年、ス
キー事故で首の

骨を折り、首から下が全く動かない状態になりました。医師からは「一生寝たきり」とも宣告され、絶望の中で自殺を図られたこともあったそうです。その彼を支えたものは、妻や両親、医師、看護師、生徒、同僚の先生などの励ましや応援でした。そして、気づかれたことは、「自分はいろいろな助けによって、生かされている」でした。

腰塚さんの言葉に「口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。耳は人の言葉を最後まで聴くために使おう。目は人の良いところを見るために使おう。手足は人を助けるために使おう。心は人の傷みがわかるために使おう。私を助けてくれた人たちがしてくれたことを今度は私がしよう。」というものがあります。

私は、職員や教職員の仕事ぶりから「口は市民や子どもを励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。耳は市民や子どもの言葉を最後まで聴くために使おう。」などのように置きかえることができると話しました。誠実で、真摯な姿勢に感心をしており、職員、教職員への敬意を表しました。

新しい一年、「草津の教育」の充実・発展に向けて、市民や子どもに寄り添い、滋賀県教育をリードし、さらには、全国に誇れる実践を重ねる事務局として一丸となって取り組みたいと思います。

次に1月8日、教育委員の皆様には、草津クレアホールで開催された「草津市成人の日記念式典20歳の集い」に御出席をいただきありがとうございました。今年、草津市では1,507人(男性853人、女性654人)が成人し、式典には918名が参加しました。参加率は60.9%でした。また、草津市の成人式は実行委員形式で行うことが定着し、37名の委員には9月から5回にわたって準備等に取りかかっていたいただきました。成人を祝うにふさわしい企画・運営、そして当日の厳粛な祝典の様子を見て、草津の若者のパワーとこれからへの期待を感じました。

次に、道徳教育の推進についてです。本市は文部科学省・滋賀県教育委員会から道徳教育の研究委託を受けており、その指定校である老上中学校では12日に、また、同じ指定を受けている渋川小学校では22日に、それぞれ「道徳教育研究発表会」が開催されました。「道徳の時間」は小学校では平成30年の4月から、中学校では平成31年の4月から「特別の教科 道徳」になります。「考え議論する道徳」への転換が強調されており、指導方法に工夫が必要です。また、評価をどう行えば良いかにも関心が集まり、児童生徒を認め励ますような評価が必要です。

本市における研究実践は、学校はもとより市内道徳教育推進教師の力で推進されています。オール草津の取組を通して、「特別の教科 道徳」に向けて一定の方向を見出すことができていると感じました。

次に、玉川小学校と台湾の崇文（すうぶん）国民小学校との交流についてです。18日に、崇文国民小学校から、5・6年生44名と保護者、合わせて65名が玉川小を訪問されました。全校児童との交流会では、児童からの歓迎の発表、崇分小学校からはダンスや音楽の発表がありました。また、給食を通しての交換会なども行われました。地域の皆さんも、餅つきや交流を祝う石碑の除幕式などに御協力いただき、地域とPTA、学校が一体となった交流になったと聞いています。コミュニティ・スクールとしての一つの好事例になるものと思っています。

また、崇文国民小学校は前身が「玉川公小学校」という名前であったことも後で分かり、この偶然は今後も交流の充実につながるようです。

次に英語検定事業についてです。本市では、平成28年度から中学校の全学年でGTECによる検定を実施しています。GTECでは、読む・聞く・書く・話すの4技能をスコアで測定することができ、総合スコアはこれまでの英検の取得級への換算もできます。

平成31年度の全国学力・学習状況調査では英語の4技能のテストも行われる予定ですし、平成32年度からの大学入試でも4技能測定が導入されます。このように「話す力」の重要性が高まっており、本市では、中学1年生はタブレットを用いた4技能検定を実施しています。今後、中学2年生、中学3年生についても4技能検定を取り入れていきたいと思っています。

なお、今年度の中学3年生で英検3級以上相当の英語力を有する生徒の割合は、昨年度の54.9%から、0.2ポイント上がり55.1%でした。全国の結果はまだ出ていませんが、昨年度の全国の結果は36.1%だったことから考えると、全国よりも20%近く高い数値で、今年度も全国トップクラスだと思っています。

最後に、うれしいお知らせです。第47回京都新聞お話を絵にするコンクールで、草津市からは笠縫東こども園と草津小学校が選ばれました。草津市の学校はほぼ毎年学校賞をいただいております。「図工の草津」としての質の高い実践を今後も進めていきたいと思っています。

それでは、委員の皆様から1月にあった行事や教育全般に関する事項で特に御意見、御感想などがございましたらお願いします。

杉江委員

今、教育長の話にもありましたが、8日に20歳の集いに参加をさせていただきました。大変華やかな雰囲気の中にも新たなスタートへの決意が感じられる開会のセレモニーでございました。懐かしい中学校の風景が流れると、どよめきが起こりまして、きっと画像の奥に自分たちの思い出を重ねて見ているのだろうと感じました。

メッセージを話されたかたの中に「感謝の気持ちを忘れないように」や、「選挙に行ってください」というメッセージとともに、「ぜひ若いうちに海外に行ってきてください」というメッセージがありました。これから、グローバルに生きるための視点ですとか、感覚を実際に体験することは、大切だと思いましたし、とても大事なメッセージだなと聞かせていただきました。

毎年、その年の内容とか工夫があふれていまして、当日は雨ではありましたが、大変すがすがしい気持ちと若いパワーをたくさんいただいた気がいたしました。

もう一つ、松原中学校で、この1週間学校公開日という日を設けられて公開されていることをホームページで見ましたので、寄せていただけてきました。大変寒い時期でしたので、来られているかたはほとんどおられなかったのですが、足を踏み入れましたら「どこでも自由に見てください」という言葉をいただきましたので、受験の間近な3年生の授業を見せていただけてきました。少人数教室で、英語と他の教室では数学を半分の人数で授業をされていまして、以前、総合教育会議の中でも授業改善の方法として、少人数での授業を聞いていましたので、それを実際見せていただきました。人数が少ないと集中力がとても高く、先生の言葉の聞き取りですとか、投げかけもとても行き届いて自分が考えていくというような雰囲気を感じられる授業でございました。

また、私は、特に廊下とか階段とかの掲示物がとても丁寧にされているのに驚きました。幼児教育の場でも、掲示物は大きな環境の一つでありまして、特に階段は人と人が交わる空間で、その空間の掲示物には、とても配慮をする、重要な場であると認識をしていました。松原中学校の掲示物には学校の当たり前のことを10か条、スマホルール編、いろんな編があるようですけども、とてもインパクトがある形で掲示されていまして、とても目につきやすく、効果があるなど見せていただきました。

そういった話を教頭先生にさせていただきましたら、「以前と違って、掲示物がはがされなくなりました」と先生はおっしゃっていましたが、基本的なルールを守ることが学力を上げていくための相乗効果になっていっているのかなということを見せいただきながら帰ってまいりました。

檀原委員

年末年始になりますと、いろんな伝統的な行事が多いなということで、私も町でお祭りの役目をするのがありまして、年末から正月に向けてのしめ縄をつくったりとか、「左義長（さぎちょう）」のときに、竹を組んで左義長をする準備をすることをさせていただいたのですけれども、こういう昔から伝わってきているものの中で、縄を編むとか竹を利用する文化は、だんだんやれる機会も少なくなって、身近でなくなっている部分がありますので、ぜ

ひそういうことも伝えていくことが大事だなと、そういう経験をしながら感じました。

また、先ほど話があった、成人式の件に関しましても、今年は、当日になって着物が届かないというようなニュースがありました。でも、その中で、たくさんの方がそれを支援しようと、着られなかった人たちを急遽招いて着つけをしたり、髪型を整えてあげるといったようなニュースもあって、人々のすばらしい様子も感じたところでございます。

一方で、何らかの理由で晴れ着は着たいけれども諦めざるを得ない人たちも同時にいるのではないかなということ、こういう機会を通じて考えることも大事だし、草津の中でもそういうかたがおられるかもしれないという中で、何らかの取組ができたらいいなと感じたりすることもございました。

また、伝統的文化として、市内とは直接関係がないですが、昨年、草津にも来てくれた力士の人たちの中でもいろいろ年末から今年にかけて、いろいろ議論をされるようなことがございました。伝統というものは、変えていくところと、守っていくところの両方が大事だなとも思いますし、また、伝統の大切さとか、それぞれの意味を考えるいい機会になったかなというふうなことも思いました。

一方で、これは少し残念なニュースであったんですけど、大阪府寝屋川で、33歳の長女のかたが寒さの中で亡くなってしまったということを55歳の父親と53歳の母親が放置したということがございました。これはいろいろ、事情があると思うんですけども、近くにいる人もなかなか気づかないようなことがあったそうですし、こういうことが私たちの身近な中にも気づかないところで、ないだろうかということは、一人一人が考えることが大事だなということも思いました。

また、しんどい子どもというのは、周りにしんどい親がいて、しんどい家庭があるのでないかということも考えることも大事で、そういう人たちを何らかの形でどこか救いの手につなげていくことも私たち一人一人が考えることが大事であると思います。

それと同時に先ほど、成人式の中でも若い人たちがこれから巣立っていくときに、その次の世代を育てる親としての一人一人がよき親となれるように私たちもこれからいろいろな形で、取り組んでいくことが大事だなということも感じることができました。

先日、玉川小学校と台湾の崇文国民小学校との交流会に私も参加させていただく機会がございました。昨年、台湾に地元から学校長や地域の代表のかたが行かれたときに、「よかったら、こちらにもお越しください」という言葉をかけられたそうです。そうしたら、1週間後に60数人で来ますという返事があ

ったということで、急遽、どういう迎え方をしたらいいかということで、本県の高月町にあります雨森芳洲（あめのもりほうしゅう）の地元のところに行かれました、そちらでは既に韓国との交流をされているという経験がございましたので、どういことをしたらいいかと学びに行かれて、そして、手づくりのもてなしをするということで、みんな知恵を出されて、盛り上がる催しをされました。初めて来られた中で、こんなもてなしをされるということで、すごく感動されて、大阪の領事館のかたも来られていたようで、これはありがたいことだし、これからも続けていきたいということをおっしゃっていました。非常にありがたい、いい催しになったなと思いました。

同じ地域の中で、実は昨年、ベトナムのかたとの交流会もありまして、その発表が先日の1月21日にこちらの市役所の2階で「多文化共生フォーラム」というのがありました。そこで、ベトナムとの交流をされたときの様子を発表されたんですが、いろいろなハードルを考えたり、やり方を上手にしようというのではなく、本当に気持ちを通じたら、ちょっとしたことからでも始められるということが発表の中にありました。子どもたちは、特にこれから多文化の中で生きていくわけなので、こういう経験を通して、この一つの種がみんなの心の中で育ってくれたらいいなという思いがありました。

最後に、先日1月22日の月曜日ですが、草津のクレアホールで、劇団四季が「こころの劇場」という取組で来られました。これはいろんな企業が支援をされて、劇団四季が全国を回って子どもたちに本物の芸術に触れてもらう機会をつくるというもので、本市でも3年目になるそうです。そちらには、市内の6つの小学校から時間を区切って午前の部と午後の部に来られたそうです。学年は全部の学年が来られないので、高学年が中心だったのですが、本物の芸術を通じてというだけでなく、その中で訴えかけるものもたくさんある内容でしたし、また、芸術ということはいろんな人生の中で、自分が生きていく力の源泉になるものだと思います。これも一つの種まきだと思いますので、可能であれば、来年は14小学校ございますので、6年生だけでも全ての学校から来ることができるように、みんなが知恵を出せばいいなというようなことも思いながらいい催しをしていただいたことに感謝したいなと思っています。

中西委員

私も年末から年始にかけて書道をやっていますと、書初めのシーズンになってまいりまして、年末には、草津小学校の学区の子ども会のかたから呼ばれまして、子どもさんがたに書き初めの講習をするということで、3年生から6年生の間ぐらいで大体50人の参加があったんですが、私も子どもさんがたくさん来る場所で字を教えることが最近あまりなかったんですけども、以前と比べて非常にいろいろな子どもさんがいるなという印象を持ちました。内にこもっ

ている子もいましたし、多動というか、そういう子もいましたし、いろいろですけども、それぞれ文字を書いていく中で、少しずつ自分の思いを筆に乗せて表現できていくというのが、それもいろんな子がいて、いろんな字を書いていくってくれるのが、楽しいなと思いました。

書道は子どもさんの内面がストレートに出てくるような表現活動だと思いますので、一人一人の子どもさんの持ち味とか、心の中にあるものが引き出せていくものかなと改めて思いました。

それで、ついこの間ですけども、滋賀県の書道協会、これは公益社団法人、私も理事をさせてもらっているんですが、公益社団法人の滋賀県書道協会が主催します書初め展覧会がありました。先日、審査がありまして、県内から1万6,000点の作品が集まり、県内の子どもさんの人数がどれぐらいか、はっきりわかりませんが、1万6千点という、かなりの率の子どもさんが出てきていました。先ほど申しました草津小学校の子どもの作品もその中にあったんだろうと思いますけども、たくさんの出品をいただいて、審査も大変だったんですが、何とか今度大津市歴史博物館で、5千点ほどの展示をさせていただくことになっております。

もう一つ、先ほど教育長も申しあげましたが、京都新聞のお話を絵にする展覧会と同様に、京都新聞の書初め展覧会がございまして、それも書道協会がバックアップしている形ですが、それには、3万点ぐらいの作品が集まってきます。出品料も無料ということもあって、たくさん集まってくるんですが、なかなかその展覧会に入賞するのは、非常に難しいというような展覧会ですけども、県内の子どもさんが、多いときで4万点の出品がありましたけど、3万点余り出品数があったと聞いていますけども、そのうちの数百点が展示されるということで、また、2月の中旬ぐらいに京都新聞の特集で京都新聞の書初め展の入賞者の発表がございまして、それも見させていただくといいかと思えます。草津市の子どもさんもたくさん入賞していただいていると思えますので、見ていただけるといいかなと思えます。

それから、これは私どもも非常にうれしいことがありまして、ここでお披露目させてもらいたいのですが、12月の県議会で滋賀県の書教育についての質問があったようです。そこでは、田中松太郎議員から滋賀県の書教育はどうなっているのかということ質問されて、教育長、また知事が、答弁されました。教育長は滋賀県の特色ある書教育の取組について、質問を受けられまして、答えとして、「小中学校における書写の学習や半世紀に渡って、取り組んでこられた特色ある書教育は高等学校での書道に関わる生徒たちの活躍につながっていると考えます。今後も子どもたちが、郷土滋賀への愛着を深め、書道という日本の文化を大切に作る心を育んでくれるよう応援したいと存じます。」と、

このような教育長のコメントでございました。

また、知事のコメントには、書道文化の振興についてということで、答弁をいただいたのですが、「書道は、墨と毛筆で文字を書くことで、線の太細、太い、細いというものや、にじみやかすれなどが生まれ、強さやしなやかさなどの線の表情や余白の取り方で、書く人それぞれの個性が生まれる。表現できるすばらしい芸術であると存じます。このような書のすばらしさ、楽しさ、奥深さを県内の多くのかたがたに伝え、書道の振興に努めてこられた関係の皆様の方の長年の御取組に敬意を表したいと存じます。滋賀県では、展覧会やイベントを通じて日ごろの活動を発表していただく機会を提供し、書道文化の振興に努めております。本年9月、米国ミシガン州のスナイダー知事が来県された際、私もともに書道パフォーマンスを行い、書道文化を通じた国際交流も行ったところでございます。書道を初めとする文化、芸術は、人生と地域を健やかで豊かにするものであり、子どものころから多様な芸術に触れ、表現や創作の楽しさを知ることが大変重要であると認識しています。文化、芸術の力を滋賀の活力としていけるよう引き続き関係団体とも連携しながら取り組んでまいりたいと存じます。」このようなコメントでした。

このようなことで、今までは、実は書道協会、いろいろなところでおしかりを受けていたことがたくさんあったんですが、昨年の12月、県会でこのように認めていただいて、心強く思っているところです。同時に、今、申しましたいろんな展覧会は、県会初め、各市町で多くのかたに支えていただいているからこそできるものでございますので、公益社団法人としての書道協会は今後、力強く教育を進めてまいりたいと思っております。

もう一つ、1月17日に神戸の震災の日でしたんですけども、神戸へ参りましてボストン美術館の至宝展という展覧会を見てまいりました。非常に中身の濃い展覧会で、ボストンはマサチューセッツ州にある美術館ですけども、日本の美術品をたくさん持っていて、その美術品を集めた一人が、フェノロサです。フェノロサは、大津の法明院というところに墓がございます。また、同じようにピロゲーという人がいますが、これも同じように三井寺の法明院に墓があるようですね。そういったかたがたが日本の美術品を多く買われたと思いますけども、そしてボストン美術館に収用されたわけですけども、その中身の美術品が非常にすばらしくて、中国の絵画でありますとか、日本の絵画、書も含めて非常に見ごたえのある展覧会でございました。

草津も美術館はないですけども、何かそういう新しい、いろんな美術展とかかする際に、広くいろんな人たちのものを提供してもらえようようなことができないかなということを思っていました。美術館としては、いろんなやり方があって、多くの人に良いものを見せたいと思っておられると思うんですけども、草

津の中でも、身近にすばらしいものがたくさんあると思いますので、そういったものを収集していくというようなことも大事な役割ではないかと、ボストン美術館と同じようなことはできないとしても、身近にあるものをうまく利用して、あるいは、身近な人が集めてきたものを、うまく利用して、名品を集めていくというような方向はできないかなと思っておりました。

まだ、神戸の至宝展は期間が2月4日までありますので、また行かれたらいいかなと思います。

川那邊教育長

それでは、教育長報告につきましては以上で終わります。

—————日程第4—————

川那邊教育長

次に、日程第4、報告事項に入ります。

報告（1）インフルエンザの流行による幼・小・中学校・園の臨時休業の状況について事務局より報告願います。

スポーツ保健課長

スポーツ保健課の岸本でございます。

報告事項（1）、インフルエンザの流行による幼・小・中学校・園の臨時休業の状況につきまして御報告申しあげます。

報告書の2ページであらかじめお配りしておりましたが、1月18日現在のもの、本日現在のものは、本日お手元にお配りいたしましたので、御覧いただきたいと存じます。資料の上の表が各月ごとの臨時に閉鎖した学級数、また、下の表が出席停止した子どもの数でございます。下のグラフにおいてグラフ化もしておるところでございますが、1月に入りまして、41の市内の幼小中の学級が閉鎖しておりまして、罹患者も585人というところ出しているところでございます。

インフルエンザにつきましては、毎年、大体1月の末から2月の初めごろをピークに多く発生する傾向でございますが、今年度は流行期が少し早くございまして、12月の7日付で滋賀県薬務感染症対策課から滋賀県全体がインフルエンザの流行期に入った旨の通知がございました。それ以後、12月27日付で注意報、そして1月11日には警報が発令されまして、現在も発令中でございます。

また、傾向といたしまして、毎年A型が先にはやって、B型が後期ということになるんですが、A型、B型ともに今現在はやっているという状況でございます。

市内の幼稚園、小学校、中学校には、インフルエンザを広げないためにとい

うことで、手洗い、うがいの励行、せきが出る時のマスクの着用、栄養と休養を十分に取ること、ワクチンを接種する、早めに医療機関に受診すること等をその都度周知しているところでございますが、現在、流行期ということでございまして、情報等十分注視してまいりたいと考えております。

以上御報告とさせていただきます。

川那邊教育長

それでは、ただいまの報告事項について御質問はございませんか。
よろしいでしょうか。

各委員

— 質問なし —

川那邊教育長

次に、報告事項（２）寄付受け入れ報告について事務局より報告を願います。

教育総務課長

報告事項（２）寄付受け入れ報告につきまして教育総務課の松浦から報告を申しあげます。

報告書最後のページになります３ページを御覧ください。一つ目でございますけれどもセキスイハイム近畿株式会社滋賀支社様より教育年賀はがきを２千五百枚を市内の全小学校に御寄付をいただいております。

また、株式会社センチュリー２１・ジャパン様より自動体外式除細動器、ＡＥＤでございますけれども、３台を当教育委員会に御寄付いただきまして、スポーツ保健課に備えつけてございます。

川那邊教育長

ただいまの報告事項につきまして、御質問等はございませんか。
それでは以上をもちまして、本日の議事は終了となりますが、ほかにございませんか。

スポーツ保健課長

スポーツ保健課の岸本でございます。今、お手元に、第６３回草津市駅伝競走大会ということで、チラシを配付させていただきます。２月１８日に、立命館大学のびわこ・くさつキャンパスにおきまして、体力づくり、中長距離の競技力向上を目的に草津市駅伝を開催させていただきます。中学生の部、地域対抗の部、一般の部、小学生の部ということで、またミニマラソン等の企画もいただいておりますので、当日は、９時開会式ということで、１５時前ぐらいまでそれぞれの部の駅伝を開催させていただきます。もしよろしければ、また御視察等いただければと存じますので、よろしくお願いたします。

川那邊教育長

ほかよろしいでしょうか。

それではこれもちまして、1月定例会を終わらせていただきます。次回は2月16日金曜日午後3時30分から定例会を開催する予定ですのでよろしくお祈いします。

閉会 午後 4時40分